

明治天皇の鎌倉行幸

明治天皇の初めての鎌倉行幸が明治六年四月に行われました。この行幸は、天皇が小袋谷村附近と鶴岡八幡宮附近での陸軍野営演習をご覧になることを目的とするものでした。明治五年に陸軍省が設置され、六年に徴兵令が施行され陸軍幹部兵士の養成が急務となり、その操練の仕上げの野営演習が二月から鎌倉で行われていました。

明治天皇は四月十四日午前六時三十分、皇居を出立し、新橋駅から汽車で神奈川駅まで来られ、ここから馬車で保土ヶ谷を経て戸塚に着いて休憩をとり、今度は騎馬で鎌倉道を進み十二時三十分ごろ小袋谷村で演習をご覧になりました。

小袋谷村附近での演習部隊の配置図を見ると、小袋谷村を中央にして扇形に展開したようです。扇の要の場所は小袋谷交差点の辺りで司令本部が置かれ、左翼隊は台山の辺りに、右翼隊は大船警察の裏山辺りに置かれました。更に前に前哨の三小隊が、山崎の天神山、大船の離山の腰山、岩瀬の大長寺近くの山に展開しました。明治天皇はこの様に兵隊を分布配置した先鋒部隊の前線としての陣形の様子をご覧になられたようです。

この後、明治天皇は鶴岡八幡宮近くの宿泊所へ向かい、午後一時三十分に着したそうです。